

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 保育の見える化／社会福祉法人育星園 函館美原保育園

子どもたちの遊びの姿を保護者に伝える工夫をどのようにしていますか？今回は、日々の保育における子どもたちの姿を写真やコメントによる記録として掲示し、保育の“見える化”を工夫している園の実践をご紹介します。保育の“見える化”は、保護者との連携を深めることのみならず、保育者間の共有、保護者と子どもと保育者との共有、さらには子ども同士の共有にも繋がります。この実践から、活動を展開する中で子どもたちの「科学する心」の育ちが読み取れます。



### ● ボードフォリオを工夫して～種から種へ～／5歳児

園の保育について、保護者の理解を得るための一つの工夫として、ボードフォリオ※という方法を知り、園に取り入れた。子どもたちが、野菜の生長過程で、「よく観察したり世話をしたりして、大切に育てる姿や数々の問題に出合いながらも、友達同士、試行錯誤しながら乗り越えていく姿」を、保育者の援助も入れ、写真とコメントを中心に記録し掲示した。この「種から種へ」の栽培活動について、作成したボードフォリオは年間で20号になった。卒園時には、他の活動のボードフォリオと合わせて、保護者に記念に贈った。

※ボードフォリオ…「写真とコメントで構成される壁新聞のような形式」（ベネッセ教育総合研究所 発行「これからの幼児教育2013秋号 第2特集：事例1」より引用）

### ✿ 種から種へ：場面1「ポットにお引越し」

- 例年、苗から育てていた野菜、子どもたちの「種から育てたい」という思いを受け入れ、種からの栽培に挑戦することになった。子どもたちは、何を植えるかを自分たちで相談した。そして、様々な野菜の種と出会った子どもたちは、その色や形にびっくりし、よく観たり図鑑を調べたりなど、さらに興味を深めていった。種は、プランターに植えた。
- 続々と生える野菜たちの発芽に喜んでいた子どもたち。しばらくして、何やら様子がおかしいと気付いて…。  
Aちゃん：「何か、倒れているのが多いね」  
Bちゃん：「土に近い所が細くなってる」  
Cちゃん（触ってみて）：「ぐによぐによしてる」
- そこで、みんなで原因を考え合い、話し合った。  
Dちゃん：「水のやりすぎじゃない？」  
Eちゃん：「寒すぎた？」  
Fちゃん：「大きくなったから、プランターが狭くなった？」
- なかなか鋭い意見も出た。みんなで話し合い「土もグチャグチャだし、芽も伸びてきたから広い場所に植え替えよう」ということになる。



※ボードフォリオ：野菜の栽培  
No.5（画像クリックでPDFが開きます）

### ✿ 種から種へ：場面2「畑危機一髪！」

- ポットに移し替えてから、いつものように水やりをしていると。

Aちゃん：「何これー」

Bちゃん：「うわっ！」

Cちゃん：「何か出てる！」

保育者：「どうしたの？」

Dちゃん：「何か変なの出てるー！」

- 見ると、トウモロコシの種がブヨブヨに膨らみ、汁が出ていてビックリ！よく見ると、他の芽の様子もおかしい事に気付いた。そこで、一つ一つ調べ、全員で原因を探る事にした。
- みんなで調べると、芽の時は、水やりは少なくて良いと分かった。  
「水、すごくあげてたー」  
水のやりすぎに気を付けようと誓い合い、かろうじて無事な芽や苗を大切にしていこうと確かめあった。



※ボードフォリオ：野菜の栽培 No.6 (画像クリックでPDFが開きます)

### ❖ 種から種へ：場面3「ブロッコリーを守れ！！」

- 畑の観察中に、ブロッコリーの異変に気付いた子どもたちが、クラスみんなに集合をかけた。そこには、穴だらけになった葉と、青虫と卵がぎっしり。
- 「食べられたら大変！どうにかしなきゃ」と心配する子どもの声に、みんなで、話し合っていると…。  
Hちゃんから「虫と卵のところ切ってみる？」という考えが出る。また、Rちゃんの「先生、チョウチョになるかも知れないから飼いたい！」という声にみんなも賛成し、葉に付いていた青虫をクラスで飼うことになった。



※ボードフォリオ：野菜の栽培 No.10 (画像クリックでPDFが開きます)

### ❖ 種から種へ：場面4「種取り」

- ある日、畑のトウモロコシをじっと眺めていたHちゃんが、「先生、トウモロコシってそのままにしてたら、種になるかもしれないだって」と言う。みんなに伝えると、全員一致で「種を集めよう！」と盛り上がった。図鑑で調べながら、カボチャ、トマト、ピーマン、トウモロコシ、ナスなどの種を採取することになった。取り方は様々で、簡単に取れないものもあった。
- ナスは、しばらく置いて腐らせ、柔らかくなったら水の中でほぐすと簡単に種が取れることが分かった（保育者が知らせる）。数日後、ナスの種採りに挑戦。  
Aちゃん：「ブシュブシュしてるー」  
Bちゃん：「皮がなかなかやぶれない」  
Cちゃんは、水に入れると「いっぱいでてくるー」と採取成功！
- 種をどうするのかみんなで話し合い、思い出として持って帰り、今度は家庭で育てようという話になった。また、卒園記念制作の素材の一部として利用した。



※ボードフォリオ：野菜の栽培 No.16 (画像クリックでPDFが開きます)

### ❖ 見たい時にいつでも

- 保護者が、クラスの子どもの、または他学年の子どもの遊びの姿や様子を、いつでも見たい時にゆっくり見ることができるよう、掲示の終わったボードフォリオをクリアファイルに入れてコーナーに置いておく。



### ❖ 一人一人の子どもに焦点を当てて

- 活動毎のボードフォリオとは別に、「〇〇ちゃんの～（遊びの名前）」として、一人の子どもの遊びの姿に焦点を当てたボードフォリオも作っている。
- 年間を通してクラス全員のボードフォリオを作成している。



## ✦ 振り返って

- この記録のプロセスには、子どもの気付き、観察、話し合い、仮説、試行、失敗、計測、調べるなど、「科学する心」に繋がる要素がしっかりと入っていることが、保育者だけでなく保護者にも伝わった。
- また、たくさんの発見や気付き、失敗について子どもたちが、考え合い話し合う機会が多くあった。その中で、子どもが失敗に落胆せずに、友達と追求・探究し、相談して楽しみながら再挑戦するたくましさ、根気強さからは、将来のモノ作りや科学の基本となる心の育ちを垣間見ることができた。失敗しないようにと、大人が先に手を回すのではなく、子どもたちが失敗しても、再び考えることの楽しさを積んでいくことが、自己肯定感に繋がることが分かった。

保護者への理解の媒体として、ボードフォリオは次のようなメリットが分かった。

- 保護者が「今日、何して遊んだの？」という質問を子どもにするのではなく、子どもの気持ちに添った質問をするようになった。そして、保護者の多くが、保育園がどういう保育（教育）を行なっているのかの理解が広がり、信頼感と協力が得られた。
- 保育のプロセスや評価が当事者のみならず見えやすいため、職員間の共有がしやすい。また、子どもたちの実態把握や次のねらいを立てる際にも活かされた。
- 子ども同士の遊びの共有にも繋がり、学年を越えて、互いの遊びの情報が伝わり合った。

## ✦ 関連事例（PDF）

- ▶ [2014年度最優秀園論文](#)
- ▶ [実践事例集vol.12「4章 明日は」：P34-35「不思議で楽しい氷作り」](#)

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」